

令和5年度有機フッ素化合物環境中実態調査結果について

1 概要

- (1)平成28年度に水道水源を除く県内の主要河川や地下水で全県的なPFOS等調査を実施し、平成29年度からは、高濃度のPFOS等が検出された米軍基地周辺で有機フッ素化合物の調査を毎年実施してきたところである。
- (2)令和5年度は46地点の湧水・河川等で8～11月にかけて調査を行い、33地点で環境省が定めた暫定指針値(50ng/L)を超過した。

→最大濃度は、普天間飛行場周辺のチュンナガーで2,200ng/L

<調査地点数 及び 暫定指針値超過地点数>

調査地域	指針値超過／調査地点	合計
普天間飛行場周辺	12／21	33／46
キャンプ瑞慶覧周辺	1／1	
嘉手納飛行場周辺	13／14	
天願川周辺等	5／7	
キャンプハンセン周辺	2／3	

- (3)県が調査を開始した平成28年以降の調査結果を確認したところ、多くの地点で過去の調査結果の範囲内で増減している。
また、環境省が暫定指針値を設定した令和2年度以降の調査結果を確認したところ、同指針値を超過した地点は、30地点から38地点の範囲で増減している。
以上のことから、有機フッ素化合物に係る調査結果は、変動はあるものの概ね横ばいの傾向となっている。

2 今後の対応等

- (1)暫定指針値を超過した湧水等については、環境省が作成した手引きに基づき、飲用に供しないよう、関係市町村や地元自治会を通じて周知していく。
- (2)これまで、季節変動を確認するため夏季・冬季の調査を実施してきたが、季節による大きな差異は確認できないことから、令和5年度以降は年1回の調査に変更している。
- (3)普天間飛行場や嘉手納飛行場周辺の湧水等におけるPFOS等汚染は、両飛行場が汚染源である蓋然性が高いことから、引き続き国や米軍に対して、立入調査や国による原因究明等を求めていく。